

審議結果

審議会等名称：第140回神奈川県総合計画審議会

開催日時：令和5年6月8日（木）15:15～16:45

開催場所：神奈川県庁西庁舎6階 災害対策本部室

※Web会議サービスによるオンライン会議を併用して実施

出席者：◎清家篤、○牛山久仁彦、○小池智子、小野島真、小出寛子、河野英子、小林隆、関ふ佐子、松行美帆子、渡辺真理、大川良一、小泉隆一郎、田中知巳、久本卓司、海原泰江、瀧博明、大村悠、岸部都、田中洋次郎、谷口かずふみ、中村武人、柳瀬吉助〔計22名〕

(◎会長 ○副会長)

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 山田

電話番号045-210-3061（直通） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事録）

議題 「新たな総合計画の策定基本方針（案）」について

《資料1について事務局から説明》

- 清家会長：それでは、ただ今の事務局のご説明、そして牛山先生からのご説明を踏まえて、「策定基本方針（案）」の審議に入りたいと思います。ご発言をご希望の方は、挙手ないしはオンラインの場合は挙手機能等でお知らせいただければと存じます。よろしく願いいたします。では柳瀬委員どうぞ。
- 柳瀬委員：お示しいただきました「新たな総合計画の策定基本方針（案）」の3ページの上段あたりに記述されているところですが、とても重要なことを書いていると思います。政策目的への寄与度や緊急性等の観点に留意しながら、施策を重点的に推進する必要があるというのは、まさにそのとおりだと思います。
私から今後の要望と言いますか、取組みに関わってくるのですが、従来、県はKPIというものを活用しながら、これまで進めてきたと思いますが、残念ながら政策目標に対するKPIが、これで良いのかと思う項目も多くあったと思います。このような不適切なKPIにこだわると優先順位であったり緊急度なども、適切に遂行することができなくなってしまいます。今後もKPIや指標を用いながら進めていくと思いますが、行政にとって確実に達成できるKPIを設定するのではなくて、本当に必要な、キーとなる指標を用いながら、寄与度や緊急度を追求してもらいたいと思います。また、併せてその目標を達成するために必要な目標に今後果敢にトライしていただきたいと思います。
- 清家会長：はい。ありがとうございます。それでは他にご質問、ご意見等ございますでしょうか。小出委員どうぞ。
- 小出委員：今のKPIの話にちょっと付随して、意見をちょっと述べさせていただきます。この3年ほど、もともと立てたKPIですとか目指したいものが、コロナの影響で状況が大きく変わって変えざるをえなくなった、自分たちの努力ではどうしようもないものも結構あったと思います。その中で、計画期間中であっても、KPIの見直しをするべきなんじゃないかと、既にいろんな方がお話をされていたかと思います。例えば、観光客のように「海外から人を何万人連れてきたい」という目標があったとしても、コロナで絶対に来れない状況でいくら努力してもそれは達成できない。そうであれば違う目標、または違う指標を作るべきではないかと思うのですが、なかなか今の仕組み上、柔軟性がちょっと足りないと思います。これまで、KPIそのものは計画期間中、維持していかなければいけないという説明を受けてきましたけれど、やはり今

後は、そういった社会的に非常に大きな変動があったときには、K P I 自体も見直せるような柔軟性を持つるようにしていただきたいなと思います。以上です。

- **清家会長**：はい、ありがとうございました。それでは他に何かご質問ご意見はございますか。中村委員どうぞ。
- **中村委員**：K P I の話が出たので、一言申し上げたいと思ひまして、手を挙げさせていただきました。K P I を柔軟に変えるってすごい大切な視点だと思ひております。本来、K P I というのは必要に応じて変えていくものだと思います。あくまでも基本目標を達成するために、この施策が重要だと示すのがK P I の本来の趣旨だと思いますので、目標に何か達しなかったらこのK P I は本当に正しいのか、これをしっかり議論して、他のもっと重要な政策があるのかどうか、それが分かたら変えるのがK P I の目的なので、これを途中で変えないという方がむしろおかしいと思ひております。基本目標は変える必要はないと思ひますが、そのための手段であるK P I については本当に柔軟に変えないといけないと思ひております。なかなかこれをいろいろところで職員の皆様とお話ししても納得していただける方がいないのですが、そこは今後柔軟にやっていただければ良いと個人的に思ひておりますので、ご意見を述べさせていただきます。以上です。
- **清家会長**：はい、ありがとうございました。他にはいかがですか。よろしいでしょうか。それでは策定基本方針（案）については、基本的には皆様方ご了承ということでよろしいでしょうか。
- **委員一同**：（異議なし）
- **清家会長**：ありがとうございます。ではそのようにさせていただきます。引き続きまして将来を見据えた問題意識と当面の課題についてです。この将来を見据えた問題意識と当面の課題につきまして、事務局より、まず資料説明をしていただいた上で、部会での検討結果について牛山部会長よりご報告をお願いしたいと思います。

議題 将来を見据えた問題意識と当面の課題について

《事務局より参考資料1、参考資料2の説明後、部会長より部会での結果報告》

- **清家会長**：はい。ありがとうございました。それではここから委員の皆様から、ご自由な意見を伺いたいと思ひます。資料2というのが配られておりますが、論点1として将来（2040年頃）を見据えた問題意識、論点2としまして、論点1の問題意識を踏まえ当面取り組むべき課題というふうに、非常に大きなアジェンダとしてお示ししてございますので、もちろんご説明をいただいた内容に沿ったものでもよろしいですし、また必ずしもそこにこだわらずに御発言いただければと存じます。今日は、初回ですので、最終的には皆様の意見がすべて盛り込まれるとは限りませんが、少なくとも今日初めに頭出しをしていただいたもの以外は盛り込まれないかと思ひますので、ぜひ関連にご自由なご発言をいただければと存じます。それではどなたからでもどうぞよろしくお願ひいたします。では小林委員どうぞ。
- **小林委員**：私の個人的なお話で大変恐縮ですけれども、もうすぐ94歳になる父とそれから91歳になる母がおりまして、私も61歳になりました。そうしますと2040年の時、ちょうど団塊の世代の親を持って、なおかつ65歳に団塊ジュニアになるという状態の世帯をまさに今、自分で経験しているところかなというふうに思ひます。そうした中で、私の父の状況を申し上げますと、今日はショートステイに行っておりますが、月曜日が訪問看護、それから水曜日が機能訓練、そして金曜日はヘルパーさんをお願いして、木曜日にお医者

様にいらしていただくといったような形になっています。それぞれの手続きが全部、紙なので、1年間になりますと書類の山になります。看護師さんも来るたびに父の体調の記録をノートにつけていかれるというようなアナログな状態になっており、こうした状況を改善する必要があります。特にこのデジタル化の問題、この「2040年の神奈川を考える50の視点」では「7 高齢者を支えられるか」と「22 可能性を広げる未来のテクノロジー」を密接につなげるための未来像として、在宅介護、それから在宅医療のデジタル化というのは絶対避けて通れないポイントだと思います。幸いにしてマイナンバーカードも全員に普及するようになり、私の父と母にも持たせましたが、やはり非常に便利です。ですから、iPadを持って、看護師さんが行けばもうその場で保険の確認も支払いも全部終わってしまうというような環境を、早急に作らないと、介護者の負担も大きなものですし、それから介護をするスタッフ、行政の手続きも大変大きな負担になっていると思います。それらを軽減するためにぜひ取り組んでいただきたいと思います。

- **清家会長**：はい。ありがとうございました。それでは他にいかがでしょうか。河野委員どうぞ。
- **河野委員**：多様な視点で県の理解を深める丁寧な資料をご提供いただきましてありがとうございました。私の方からは、個人とそれから県、その中間に位置するネットワークの重要性が高まるのではないかとこの点について、お話をさせていただきます。今お話をいただきましたように、県がすべての問題に対応することは困難であります。他方で、個人の自助努力に、完全に依存するというのも困難でありますので、こちらの資料にも記載がある連携や協働を促していくようなネットワークを、多様な視点で育てていくことが求められているのではないかと考えます。例えば産業の視点で言いますと、そうしたネットワークの中で、大企業の中で眠ってしまっているリソースをスタートアップで活用することによってイノベーションを創出し、地域の中で波及させることが可能になると思います。さらには安全で美しい地域づくりという視点、緊急時や高齢化世帯が増える中での相互扶助という視点からも、地域のネットワークの存在が非常に大きな役割を持つと考えます。県の魅力度を高めるために多様なネットワークをどのように形成していくのかという視点が、これからの課題として重要ではないかと考えます。
- **清家会長**：はい。ありがとうございました。それでは松行委員、よろしくお願いたします。
- **松行委員**：「2040年の神奈川を考える50の視点」という資料を大変興味深く見させていただきました。今までいろいろな自治体の同様の資料を拝見していますが、かなりわかりやすくまとめていると思います。そのため、公表されると、例えば中高生の学習とかにも使われるのではないかと思います。かなりインパクトが強い資料だと思いますので、かなり注意深く作っていく必要があると思いました。50の視点をご説明いただき、確かに、どれもなるほどというのですが、全体としてちょっと暗い気持ちになってしまうような項目が多いと思いました。確かに人口減ですとか高齢化社会とか、暗い未来ではありますが、例えば私の分野ですと「22 可能性を広げる未来のテクノロジー」に関して、自動運転とかそういうものが、これからかなり普及すると思われませんが、それによってその高齢化であったり人口減少であったり、そういったものの問題というのが、かなり解決できるのではないかと期待もあります。そのため、これから構成を変えるのは難しいかもしれませんが、この未来のテクノロジーを1枚にまとめるのでは、少しもったいないというような気持ちを持っています。
- **清家会長**：はい、ありがとうございました。それでは他にいかがでしょうか。渡辺委員どうぞ。
- **渡辺委員**：この50の視点にはなるほどと思う点が多々ありました。まとめる上で大変なご苦労があったかと拝察致します。確かに、ニュースでもファクトを基に現状を数字で表す場合、過去と比較することになる結果、右肩下がりの数字となって、暗い気持ちになりがちです。ただ、冷静な分析の上で、どんな未来を描いていきたいかという中には、これまでとの比較では表せない充足度があることも忘れずにいたいと感じ

じています。例えば先ほど小林先生がおっしゃった、91歳のお母様と、もうすぐ94歳になられるお父様、もちろん介護は大変で、子育て世代も相当なご負担を負っていらっしゃるということとお察しします。しかも、コロナ後の格差は広がりつつあり、生活自体の大変さも身にしみてわかります。そんな中で高齢者という響きは常にややネガティブにとらえられがちですが、実際にその年齢を生きる親に接し、いろんな機能を手放していく姿をみると、人というのは逆に幸福度が増す面もあるといったことを私は多々感じました。なかなかこれは方針に盛り込むのは難しいことかと思いますが、時代のフェーズが変わってきている中で、下降をたどる各種のデータにもなると、気持ちの充足度も下がらざるを得ないかという決してそうとは言い切れないのではないかと。そして、そういった個々の小さな現実は、「いのち輝くマグネット神奈川」という理念にもつながる気がしています。この時代、この社会の中でも、何か前向きな空気を共有できる方針になればと願っております。曖昧な言い方になってしまって申し訳ありません。

○ **清家会長**：はい、ありがとうございます。それでは海原委員、よろしくお願いします。

○ **海原委員**：私は障がいに関わる仕事をずっとしております。特に、今回「42 障がい者施策は変わるか」というところで、国連の総括所見の中のいろいろな部分のところがここに記載されていますが、実は私今、生活介護の事業所をやっております。その生活介護の事業所も、いわゆる障がい者の権利条約に照らしてみると、ここはやはり課題があると捉えられていると思っています。だから、この障がい者施策という部分ではなくて、ここの捉え方をきちんとしていく必要があるのではないかと考えたことが1点。それから、高齢の一人暮らしの問題。これは障がいの部分にも通じてくる問題だと思っています。こういうところのリンクをどういう形でやっていくか、私たちも考えていくことが課題だと思いましたが、発言をさせていただきました。ありがとうございます。

○ **清家会長**：はい、ありがとうございました。それでは他にいかがでございますか。瀧委員どうぞ。

○ **瀧委員**：部会の時にプロセスのことでプライオリティをつけて欲しいという話をしたんですが、あれから少し中身のことを考えてみまして、その中身について今日は少しお話したいと思っています。2040年の問題だとか課題として考えたとき、一番最初に出てくるのは少子高齢化。これが出てくるのは避けて通れない話だと思いますが、やはり一番のベースがどこにあるのかと考えると、県民もしくは神奈川県に関わる方々たちが、誰一人残さず、幸せに安全に暮らせること、それに関わることを行政として取り組んでいくことが非常に大事だと思います。

それを考えると、例えば、先週梅雨に入ったら、いきなり台風が来て、集中豪雨でいろいろな災害が出ました。地震もあらゆるところで起きています。地震は日本だけではなく、グローバルで見ると、南の方でも、地球の反対側でも起こっている。要するに、地殻があれだけ動いているということは、必ず大地震は起こるということです。2040年で考えていくと、きっと起こると思います。それとコロナがようやく5類になりましたが、じわじわとまた少しずつ増えているとニュースになっています。おそらく2040年を考えると、こういったパンデミックはもう1回必ず来ると思います。日本にいとわからないですが、グローバルにいうとSARSがあったり、MERSがあったりする。その時は日本以外で収まっていたが、今回のコロナでは、全世界が同じようになりました。人がそれだけ動いているということです。2040年はもっと人がグローバルで動いていることになると思います。自然災害は避けて通れないので、それに対する備え、起こった時の対応、そういったことをきちんとテーマの中に入れておくことが非常に大事なのかなと思いました。それと、サステナブルな環境をどう維持していくかは、安全に暮らしていくには必ず必要だと思います。その中には自然、文化、そういったものを維持することもあります。例えば、茅ヶ崎市の砂浜をご覧になったことがある方はわかると思うのですが、30年前の茅ヶ崎海岸の砂浜が今はもう見事になくなりつつあります。それは茅ヶ崎だけではなく、神奈川県のいたるところでそういう自然破壊や崩壊が起こっているということです。保持をどうしていくか、維持をどうしていくか、自然が保てると観光などでいろいろな人が来てくれる。す

べて繋がっていくと思いますので、そういったことを今回問題意識、課題として取組の中にぜひ入れていただきたいと思います。

- **清家会長**：はい。ありがとうございます。それでは他にいかがでございますか。小出委員どうぞ。
- **小出委員**：私から2点、コメントさせていただきます。1点目は質問になってしまうかもしれませんが、先ほど「神奈川の特徴や強み」で4つあげられたと思います。この中の自然の定義、使い方についてです。この中では環境としての自然であったり、レジャー、文化、観光といった意味合いでの自然のことを書かれていると思うのですが、個人的に神奈川県の特徴かなと思っているのが、産業の源としての自然というものがあるのではないかと思います。例えば、海も山もある県なので、漁業があり、農業があり、林業があり、畜産業もある。自然を産業の源として、もっと活性化していく、または、神奈川県ならではのものとして、ブランド化していく。多分今までも取り組まれていると思うのですが、食の安全安心や地産地消が今すごく叫ばれている中で、神奈川県ブランドとして、自然を源とした産業をもっと出していけるのではないかと思います。それが1点目です。
2点目ですが、先ほどから皆さんも言われている超高齢社会、少子化について、労働人口が劇的に減少していくことは一つの大きな課題であると思います。もう一つは、今後いろいろなイノベーションが必要な時代に、神奈川県だけではなく、日本全体の話かもしれませんが、そのイノベーションをもっと活性化していくためには、人材の中の多様性が必要という話があります。その両方を見たときに、女性の本当の意味での活躍がすごく重要になってくると思います。もちろん平等な、公正公平な扱いをして、もし企業なら企業の中でも上のポジションにどんどん女性が行けるようにする。最近、2030年までに女性の経営層30%を目指そうという話も出ていますが、女性を本当の意味で登用していく必要がより高まってくるのではないかと思います。例えば、今、県議会には女性議員がどれぐらいいるのでしょうか。30%、40%くらいか。今日は女性議員の方もいらっしゃるのですが、もし充分数がいないとしたら、やはり女性議員も増やして欲しいと思います。県のいろいろな審議会でも女性委員の割合がなかなか上がらないという資料を読ませていただきました。本来であれば、半分ずついてもおかしくないと思います。そういったところから手を付けて、女性を本当の意味で重要な人材として活用し、そして格差のない賃金でということで、神奈川県としてリードしていただきたいという思いがあります。多様性が新しい発想を生む、今までの延長線ではない新しい県のあり方や施策を考えなければいけないフェーズだという記述がありましたけれども、そのためにも女性の多様な視点を取り入れていくということは非常に重要だと思いますので、ぜひ盛り込んでいただきたいと思います。以上です。
- **清家会長**：ありがとうございます。それでは他にご意見ありますか。牛山委員お願いいたします。
- **牛山副会長**：今の小出委員のご発言で、私もそのとおりだと思います。加えて、今、女性の議員、政治家の問題が出ましたけれども、自治日報というコラムに書いている山口先生という方がおられて、3日ほど前に拝見したときに、例えば、議員の割合とか、国会議員とか含めて上がってきているのですけれども、自治体の現場に近づけば近づくほど女性がいなくなると書いてありました。また、女性の自治会長は全国で5%、女性の防災委員は10%とも書かれていたと思います。つまりは地域の決定の場に女性がいなのが現状のようです。いきなり議員さんに出るかという経験もなく、慣れていない中で、なかなか立候補できないと思いますので、そういった意味で、小出委員のご意見に加えて、自治体の現場で女性が活躍したり、割合が増えていくような視点も一つ加えていくと、神奈川らしいかなと思いました。
- **清家会長**：ありがとうございます。それでは岸部委員お願いします。
- **岸部委員**：私たちも女性議員として頑張っていきたいと思うのですが、105人の県議会議員がおられて、

女性議員はまだ2割に達しておりませんので、責務を感じています。

質問の方に移らせていただきます。今回いただいた参考資料「2040年の神奈川を考える50の視点」と「神奈川の特徴と強み」について、パブリックコメントや県民意見募集の資料にもなるのかなと思いますが、これだけの資料を一般県民の方がどう手に入れられるのかなということが気になりました。スケジュールを見せていただくと、骨子、素案、正案を作るまでと、ずっとパブリックコメントを行っていくのだと思いますけれども、個々の段階で、例えば私たちであれば総合計画審議会に出ていけばたくさんの資料をいただくだろうと思うのですが、一般県民の方はどうしたらこうしたものが簡単に手に入るのか。また、もう一つ気になるのが、今回「かながわランドデザイン 第3期実施計画」が終わって、点検報告書も出されているわけで、そうしたものをしながら作られていくのだろうと思うのですが、やはりパブリックコメントを取っていったり、団体の皆さんに意見を聴いて、膨らませていただくというところの中で、資料の提示の案などがありましたら伺いたいです。いろいろな資料を簡便に県民の皆さんに見ていただくことで大事なランドデザインが決まっていくと思いますので、そのあたりの工夫を考えているのであれば伺いたいと思います。以上です。

- **清家会長**：それでは、ただ今のご質問については事務局から何かお答えいただくことがありますか。
- **佐藤課長代理**：はい、ありがとうございます。今後この資料はパブリックコメント等で使っていきますので、どのように県民の方と一緒に考えていただくかということが、大変重要なことだと思っています。色々な場で資料をお配りしたり、ホームページで広報するなどしていきたくと思いますが、そのほかにも広報のやり方について、今後も検討し、できるだけ多くの方にご覧いただけるように検討を重ねていきたいと考えています。以上です。
- **清家会長**：それでは他にご意見ありますでしょうか。大村委員どうぞ。
- **大村委員**：興味深い資料をありがとうございます。この参考資料2「神奈川の特徴や強み」のところで、3つ目に「集い、活躍する人材」というものがあり、環境、福祉、防犯、国際交流という分野が記載されています。私はずっとスポーツをやってきました、スポーツのプロチームだとかトップチームが多いということも、神奈川の魅力の一つだと思っています。資料に使用している写真もねりんピックの時の写真だと思うのですが、スポーツはコミュニティ的、健康的、教育的な要素があり、県でもスポーツツーリズムといった産業的な視点も取り入れられています。これまでも私自身もスポーツをやってきた身として、スポーツ推進を神奈川県で携わってきましたが、行政としての役割がなかなか明確になっていないと感じています。運動習慣を高めるなどの理念、考え方の向上だけであり、他県にはない魅力あるスポーツ産業をもっと目標として掲げて、スポーツの力を生かしたまちづくりや行政運営も大事だと感じています。
もう1点、私自身が県議会議員の中で3、4人しかいない平成生まれですが、若年層の政治離れが懸念されているなど一般的には若者は政治に関心がないと言われていています。私の感覚としては若者ほど社会問題に関心を持っていると感じています。先日の選挙の時でも、大学生から声をかけられて、こういうことを考えているとか、神奈川県はどんなことをやっていますかといったようなことを聞かれ、関心の高い人が多いと感じる中で、この「2040年の神奈川を考える50の視点」は、若者の希望や教育もありますが、高齢者の目線などが分厚い中で、若者が見たときに、どうしても課題とか問題になってしまう。やはり若者にも神奈川県に、希望を持ってもらえるようなまちづくりということで、そのような政策の立案、KPIの策定などを考えていくべきだと思います。以上です。
- **清家会長**：はい。ありがとうございました。他にはいかがですか。柳瀬委員どうぞ。
- **柳瀬委員**：この2040年の神奈川県を考える50のテーマの課題は多岐にわたりますが、本当によく言われる

ところは、少子高齢化の中での出生率の向上です。子どもの数はもうなかなか増えないと思いますが、出生率を増やさなければならぬということは、これは国内においても今本当に取り上げられている課題だという認識をしています。一方、神奈川県というのは首都圏の一部に属しておりまして、子育て適齢期という言葉が適切か分かりませんが、そういう人たちが首都圏に集まってくるという環境がありますので、全国でも言われていますけれども、神奈川県は出生率の向上を、他の全国に先駆けて注力し、本当に子どもが溢れて楽しいような県にしていくべきだと思います。ただ、これは皆さん思われているところですが、気になったのは、先ほどの「策定基本方針（案）」の2ページの、点検結果を踏まえた課題というところで、「(ア) 少子高齢社会、人口減少社会への対応」、「(イ) 予測が困難な時代への対応」、「(ウ) 神奈川の特徴を生かしたまちづくり」と三つの柱が書かれていますけれども、ここに子どもを増やしていく仕組みという記述がありません。少子高齢化は書かれていて、その対策として、人口減少を少しでも緩和するための取組み、これはもっともな内容です。また、将来の人口構造を踏まえた社会システムの再構築も、子どもが増えることが難しいので、とても必要ですけれども、そもそも少子化対策、出生率の向上にもっとクローズアップして、すべきだと思います。ここに入っていないということは、あまり力を入れる気がないのかなと正直うがった見方をしたくなります。神奈川県という特性を考えても、これは他県に先駆けて注力すべきだと思いますので、その辺も検討いただきたいと改めて思います。以上です。

- 清家会長：ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。田中委員どうぞ。
- 田中（知）委員：今、発言にあったとおり、減り続ける子どもの問題ということに危機感を持っています。内閣府の調査によると理想の子どもの数を持たない、生まない、理由で断トツに多いのは、子育てや教育にお金がかかりすぎるからという回答が一番多いというアンケート結果が出ています。その辺を改善することが必要ではないかと考えています。一番多い理由として挙げられている教育費にお金がかかることについての対策の部分では、一番お金がかかると言われている高等教育の負担軽減ということが必要だと考えています。例えば低所得家庭でも大学に進学できるような高等教育の無償化や授業料の減免、あと貸与型ではなくて、給付型の奨学金制度の拡充等に取り組むべきだと考えています。以上です。
- 清家会長：ありがとうございました。では小林委員どうぞ。
- 小林委員：ありがとうございます。最後に幸福の問題について、一つだけコメントをさせていただきたいと思いますが、渡辺委員からお話がありましたとおり、私も介護をやり始めて初めてわかりましたが、やってみると結構幸せです。なぜ幸せになるかという、大学で役職をずっと長くやっていたが、学長にお断りをして、介護をやりたいというお話をし、仕事を少し減らしていただいて家庭に時間を割いてみると、自分の中に心の余裕であったり、時間の余裕が生まれてきました。今、田中委員からお話があったように金のゆとりも当然必要だと思いますが、時間のゆとりというものを幸福の評価指標に入れていくことはとても大事だと思います。先ほど女性の議員さんが増えない、女性が活躍できないという話もありましたけれど、男性のようにガリガリ働くところに女性が入るということではなくて、男性も少し時間のゆとりを持って、一旦休む時は子育てのために休み、それから介護の時も勇気を持って休む。そうした環境を作っていくことはとても大事なことだと思います。私の友人にデンマークの政府の職員がいますが、彼女は65歳になりますけれども、年齢差別になるから定年はないと言っていました。毎週孫を迎え入れながら時間のゆとりを持って仕事をしている様子を見ると、女性の活躍社会も、そうした時間のゆとりということを幸福度に盛り込むような試みを、神奈川県でやっていただきたいと思います。以上でございます。
- 清家会長：はい。ありがとうございました。それでは田中委員どうぞ。
- 田中（洋）委員：今、小林委員のお話を聞きながら、何かこの様々な課題を見ていると、何となくポジテ

ィブな気持ちにはなれないですが、課題の解釈を変えると可能性という変化もできるのかなと思っています。今の介護を見たときには、課題、ネガティブに感じられますけれども、こう取り組んでみることで様々な気づきがあって、そこから可能性が広がるという、これから教育の現場等でも神奈川県を、若い世代たちに伝えると言ったときに、このような資料の課題感覚だけではなくて、例えば、これだけの先生方が集まっているのであれば、解釈はそれぞれあると思いますけども、そうしたポジティブな面を、「こういう考え方もある」といったようなコメント欄をつけてみるとか、「あなたはどう考えますか」みたいな問いを投げかけてみるのが良いと思いました。2040年の時に本当にこの課題の渦中にある世代は、まだ現時点ではすごく若い人たちだと思いますので、そういう人たちに当事者意識を持ってもらうためにも、ネガティブな課題をどうポジティブに自分事として捉えられるかということを発信できるような、今後の工夫を是非お願いしたいと思い、意見とさせていただきます。

- **清家課長**：はい、ありがとうございました。他にいかがでございませうか。小泉委員どうぞ。
- **小泉委員**：私は、社会福祉協議会からこの会に出させていただいておまして、仕事は福祉の関係で特別養護老人ホームの理事長を務めております。まさに高齢化で、入所者の平均年齢はもう90歳近くになり、様々な機能を失ってらっしゃる方が多いです。その中で、施設の目標といいますか、介護サービスを通して「高齢者の豊かな生活の実現」をスローガンに掲げております。高齢になりますと、やはりお金もあればいいんでしょうけど、逆に使う方法がないという方も多いです。まして高機能なスマートフォンやパソコンやテレビなど様々なものが、視力が悪くなり、耳が遠くなり、あまり必要がなくなります。では、何をもちて豊かさを感じるかというところをスタッフに話しているのですが、安全・安心なサービスというのが大前提にあり、付き添ってもらって安心してお風呂に入れる幸せであったり、食事は何を食べるかや、高品質な材料の食事を取るというよりは、誰と食事を取るかという点が非常に重要であると考えます。社会はやはり経済主義で動いていますから、GDPであったり、高機能であったり、高性能であったりというふうに、とかくそのものさしで考えるんですけど、豊かな社会の質の部分、やはり人間的なコミュニティであったり、支え合いであったり、そういったものさしで考えることによる豊かさというのを、県としてもぜひ考えて、サービスなどにつなげていければと思っております。以上です。
- **清家会長**：ありがとうございました。それでは他にご意見ご質問ございませうか。瀧委員どうぞ。
- **瀧委員**：中身の話ではないのですが、参考資料3のバブコメ用リーフレットを今後活用して広く県民の皆さんに声を聞いていこうということで、この案を出されていると思うのですが、個人的な印象ですが、文字ばかりで面白さがあまり感じられない。楽しさがないように思います。課題を見ていくと、どうしてもネガティブなことが多く、それにどう対応していくかを考えますが、もっと前向きに、どうしたらみんなが明るい未来を築いていけるのかという観点を生むためには、例えばイラストや写真を入れるとかして、もう少し楽しさがあって、県民の皆さんが答えやすい、ちょっとやってみようかみたいになるような、やっぱりマインドセットがとても大事だと思いますので、そういったものを神奈川県庁が持ってくださいと、我々も嬉しいと思いますので、ぜひ考えていただければありがたいです。
- **清家会長**：ありがとうございました。他によろしいでしょうか。関委員どうぞ。
- **関委員**：「2040年の神奈川県を考える50の視点」は、貴重な資料だと思いながら拝見させていただきました。特に「45 幸福度は測れるか」で神奈川県がGDWが全国1位という点はうれしいです。問題意識としては、計画推進評価部会・計画策定専門部会でも示されたとおり、神奈川県ならではの項目を挙げて、優先順位を上げて取り組んでいく必要があるのではないかと考えています。では、具体的にどう取り組んでいくかということですが、まずこれまで策定した総合計画の評価を検証して、それを生かしていき、次に、正

確なデータをもとに計画を立てていくべきだと考えております。この点、以前から、前の総合計画でも何度も指摘させていただいてきたように、「2040年の神奈川を考える50の視点」に掲載されている図表においては、神奈川県の数値と全国の数値の両方を比較した上で神奈川県の特徴を見せていくということをしつかり行っていくべきです。「4 減り続ける子ども」の図表では両方が出ていて、神奈川県の特徴が見えやすいです。他方で例えば、「1 止まらぬ人口減」の人口ピラミッドや、「6 100歳以上が10万人」、「7 高齢者を支えられるか」など私に関心のある高齢社会についての数字をみると、全国の数字にとどまっていて、「8 孤独な高齢者の増加」は神奈川県のみです。こうした形ですと、全国的にこのような問題があるということは皆さんに伝わるとは思います、神奈川県は具体的にどこが課題なのかというところが、見えにくいです。

先ほどからも県民にどうアピールするかということが話題となっているなかで、もちろんコンパクトにまとめたアピーリングな形で県民の意見を集うことも重要です。それと同時に、いろいろな問題意識をお持ちの県民の方には、よりしっかりと情報提供をして将来を考えていただくと良いと思います。ホームページに資料をアップするのであれば分量に制限はありませんので、資料作りは大変ですが、できるだけ神奈川県と全国の両方を示す数字を提示していただきたいと希望します。

次に中身の内容としては、私は高齢者を専門としておりますので、「8 孤独な高齢者の増加」の部分で、孤立する高齢者が増加している点は、大きな問題だと思っております。これまでも何人かの方からご指摘があったとおり、繋がりづくりが大切です。同時に、「42 障がい者施設は変わるか」「43 世界から取り残される日本のジェンダー意識」「44 新たな人権問題」のように、多様性を重視する必要性も問われています。その点からも、参考資料2「神奈川の特色や強み」にある「くらしと多彩な自然・文化が調和し、時代を切り拓く人材や産業が集う神奈川」、「多様な人材の活動拠点」という特色や強みを生かした形の多様性を検討していく必要があるのではないのでしょうか。しかし、この多様性や、繋がりづくりというのは、なかなかKPIでは評価しづらい点です。そこで、NPOやボランティアによる多様な活動を、より神奈川の強みとして展開していくためには、これまでも課題となっている、こうした多様性や繋がりづくりをどう評価していくかということをしつかりと検討していくべきではないかと考えています。以上です。

- 清家会長：ありがとうございます。それでは、小池委員、よろしく願いいたします。
- 小池副会長：新たな総合計画を推し進めていくにあたって、この「2040年の神奈川を考える50の視点」は非常に重要な課題だと考えていますが、一つのチャンスでもあると思います。例えば、高齢化にしても、非常に減り続ける子どもにしても、これはもちろん課題なわけですが、ここから何かを変えていくということ価値付けていき、その中で、弱みは単なる弱みではなく、何かを生み出すチャンスにもなりうるというメッセージを、この「2040年の神奈川を考える50の視点」の中に込められると良いと思いました。高齢のことにしても、障害のことにしても、それを克服するというのではなく、それを持ちながら生活するというに何らかの価値があるのだ、ということや、それを支えていくことには価値がある、というような、発想の転換を示していくこともとても重要かと思えます。健康についても、これまでの病気でないことが健康だ、ということではなく、病気があっても、障害があっても、人の力が借りやすいことや、テクノロジーの力を用いて適応できることにより、それはその人なりの健康だよ、というような形で、健康の定義もどんどんポジティブなものに変化してきています。これは課題ではありますが、実は神奈川が新しいバリューをつくり出していくための、とても大きな資源でもあるのだ、という発想から、この「2040年の課題を考える50の視点」の課題に取り組んでいく、というメッセージを込めて県民に対して問うことで、これもあれも問題だ、というような声だけではなく、こんな素敵なアイデアがある、ということや、このように変えていけるポテンシャルがある、というような意見を頂戴できる問いかけができれば素敵だと思います。
- 清家会長：ありがとうございます。久本委員どうぞ。
- 久本委員：青年会議所は、20歳から40歳の後継者層や、それに準ずる者たちで構成されており、70年以

上の歴史がある団体でございます。青年会議所も、日本全国で6万人を超えた時期もありましたが、今は全国で2万5,000人であり、神奈川においては1,100人ぐらいのメンバーで活動しており、人口と同様にメンバーも年々減少している現状がございます。経営者層や準ずる者で構成されている特徴から、起業した方や、二代目三代目のような地域に根差して家族経営でやっている方も多くいらっしゃいます。メンバーがどんどん減っているということは、企業が存続できなかつたり、新たな道を進む方がいたりするということです。これから2040年の神奈川という長期的な目を見た時、観光で言えば、定住人口少ない地域において、働き手や起業する方がいないということは、迎え入れられるインフラ等がなかなか整っていないということになると思います。私は今年、会長としていろいろな地域に行っていますが、現在、神奈川は移住の方も多く、先日も小田原に引っ越してきた弁護士の方が青年会議所に入ったり、藤沢に引っ越してきた方が青年会議所に入ったり、地域と繋がりを作りたいからということで、青年会議所に入る方が増えております。神奈川県では、今もテレワークの促進等もやっているかと思いますが、引き続き、移住の支援やテレワーク支援等を進めていくことで、2040年に多くの観光客や外国人の方を神奈川に迎え入れ、同時にその地域に働き手を作っていくことになると思いますので、進めていくべきかと思いましたが、また、青年会議所の活動ではありませんが、自然や環境、防災・減災について、近年では、神奈川県では「かながわ脱炭素ビジョン2050」の策定もしているかと思いますが、脱炭素社会の実現に向けて、県民と一体となって持続可能な地域を作るという意味では、やはりこの環境は外せない点だと思うので、拡充させたものが必要になってくるのではないかと感じました。

- **清家会長**：ありがとうございました。それでは、大変活発に、また幅広くいろいろな意見を頂戴しましたので、本日委員の皆様からいただいた意見等を踏まえまして、新たな総合計画の策定に向けて検討を進めていただきたいと思いますが、以上のような取りまとめでよろしいでしょうか。
- **委員一同**：(異議なし)
- **清家会長**：ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。
本日の議題は以上ですが、委員の皆様、事務局から何かございますか。
- **中谷政策局長**：事務局を代表いたしまして、一言お話をさせていただきたいと思っております。6月1日付けで政策局長を拝命しました、中谷でございます。改めてよろしくお願いたします。本日は、皆様非常にお忙しい中、活発なご議論をいただきまして誠にありがとうございました。本日ご意見をいただいた事項について、テーマが2040年ごろを見据えた問題意識、そして当面取り組むべき課題ということで、暗い課題が多かったところですが、1回目の議論ということで、そういった課題の洗い出しである、ということでご理解いただけたらと存じます。神奈川県では、4月に黒岩県政の第4期目がスタートいたしました。黒岩知事も、「県民目線のデジタル行政でやさしい社会を実現」ということで、デジタル行政をキーワードに選挙戦を戦って当選しています。今後、本日いただいたご意見を踏まえまして、新たな総合計画の骨子、素案、そして案という形で、段階を踏んで皆様のご意見をいただくこととなります。その際には、黒岩知事のキーワードでもあるデジタルをベースに政策に盛り込み、解決策も具体的に示して、明るい神奈川、住んでよかったと思える神奈川、魅力的な神奈川、マグネット力のある神奈川、そういったものを示して、ご意見をいただけたらと思っております。今後1年を通じて、県民や市町村、県議会の皆様と様々なご意見を交わしながら、計画を策定して参りたいと思っております。そして、委員の皆様方にも貴重なご意見をいただきたいと存じますので、今後ともよろしくお願いたします。
- **清家会長**：ありがとうございます。最後に、私からも一つだけコメントを申し上げます。2040年の問題を考えると、少子高齢化の数字がとても暗いというお話もございましたが、人口構造というのは、一番確実な将来予測変数でもありますので、むしろ少子高齢化の中で、どうしたら県民が幸せに暮らせるかということ

を考えるとということかと思っております。その際の一つのポイントは、行政が、あれもこれもサービスを提供する、いわゆる「サービスプロバイダー」から、県民一人ひとりが多様な考え方に従って幸せになる舞台を整えていく「プラットフォームビルダー」となるように転換していくということではないかと思っております。労働力人口が少なくなってくるということは、行政についても、職員が地域において必要なニーズをすべて提供する、ということはもうできなくなってくるわけですから、住民同士互いに助け合い、或いは様々なNPO、NGO等の力なども結集しながら、必要なサービスを提供していくことになるかと思っております。議論の中で、幸せの話がありましたが、幸せのカタチは十人十色であり、例えば福祉にしても、あなたはこういう形で生活すれば幸せになるのだ、と決めつけてサービスを提供するのでは、すべての人が幸せになることはできないわけです。やはり、できるだけ一人ひとりの望む幸せの姿を実現できるような舞台を整えることに意を用いるべきではないかと思っております。行政については、もちろんミニマムの部分は良き「サービスプロバイダー」である必要はあると思っておりますが、それ以上のところについては、一人ひとりが、少子高齢化の中でも幸せに生活することのできるプラットフォームを構築する「プラットフォームビルダー」としての役割を果たすことの大切さを強調させて頂きたいと考えております。それでは本日の議事につきましては以上をもって終了といたします。事務局に進行をお返しします。

- 佐藤課長代理：清家会長、ありがとうございました。委員の皆さん、本日は熱心なご審議をいただき、誠にありがとうございました。以上をもちまして、本日の審議会は閉会といたします。